

かみの

きんのすけ

神野 金之助

嘉永2年（1849）～大正11年（1922）

海西郡江西村（現 愛西市）出身



金之助は在郷商人の五男として生まれ、家督を継いで商業だけでなく金融業、山林事業、新田開発にも事業を拡大していった。

明治26年（1893）、災害に見舞われ泥海化していた毛利新田の開発に乗り出した。服部長七が考案した人造石で堤防を築き、難しい滞留工事^{どめ}も第一線で人夫を激励して成功させた。その後は実業家として活躍し、明治37年（1904）貴族院議員となった。

その功績をたたえ、神野新田町神富神社に「神野金之助翁頌徳碑」がある。

神野新田の開発者で
中京屈指の実業家